

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	生活構造から捉える障害者とスポーツ
Author(s)	後藤, 貴浩
Citation	熊本大学教育学部紀要. 人文科学, 56: 155-163
Issue date	2007-11-30
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/4210
Right	

生活構造から捉える障害者とスポーツ

後藤 貴 浩

Disability and Sport from the Viewpoint of Life Structure

Takahiro Goro

(Received October 1, 2007)

1. はじめに

これまで、障害者とスポーツの関係を議論する場合、多くは障害の種類・特性との関係に焦点化されてきたといえる¹⁾。例えば、アダプティッド・スポーツに関するものがある。これは、様々な障害にスポーツの行い方を合わせることによって、出来るだけ多くの障害者にスポーツ実践の場を拡大することを意図したものである(藤田, 1998)。また、パラリンピックや全国障害者スポーツ大会では、障害の程度によって生じる競技の不平等さを克服(競技の平等性の確保)するため、細かな障害区分が設けられ、その検討がなされている(藤田, 1999)。さらには、障害(者)と環境側面に着目し、彼/彼女らのスポーツ実践に必要なソーシャル・サポート(指導者・施設・交通・ボランティア・情報など)のあり方を検討したものもある(芝田, 1992。後藤, 1999)。いずれにしても、これらは障害者スポーツの大衆化・高度化を目指し、その振興策を検討するうえでは一定の知見を提供し得ると考えられる。

ところが、このような研究・調査では障害そのものが前提となり、障害者を“障害のある人”と一般化した上ですべてが議論される。そのため、これらは一部のスポーツに適合しやすい人々を対象としたり、あるいは、実践者の主体的側面が等閑視される可能性が高い。現実の地域社会では、同じような障害を持ちつつも、多様な暮らしが展開されており、その一部としてスポーツが実践されているはずである。つまり、障害者のスポーツを考える際にも、地域生活を前提とした生活主体のあり様から議論することも重要な視点となり得るのではないかと考える。もちろん、この場合も、これまでの研究が前提としてきたような、障害の持つ規定性を排除するわけではない。ただ、障害者の社会参加のシンボリックな意味としてスポーツが取り上げられ、そのトップアスリートたちに注目が集まる中、また一方で、未だ障害者にとってスポーツが遠く離れ

た存在であるという現実の中、あらためて障害者の地域生活という視点からスポーツを捉えなおすことは重要なことであろう。そこで本研究では、障害⇒スポーツという視点に加え、障害⇒生活⇒スポーツという視点を加えることで、より現実 に即した形で障害者のスポーツ実践に迫ることを意図し、研究に着手することとした。

本研究の目的は、地域で生活する障害者の生活構造及びスポーツ実践の実態を明らかにし、地域スポーツとしての障害者スポーツを議論する際の一資料を得ることである。付言すれば、全国展開されている総合型地域スポーツクラブの育成において、“障害者を含めて”という言葉が安易に使われ、そのことにより地域の理解を得ようとする流れに対して、その画一的な育成のあり方を問い直すきっかけになることも意図している。

2. 研究の方法

1) 分析の視点

本研究では生活構造分析、特に鈴木広(1986)を参考に分析を行うこととする。彼は、生活主体と社会構造との接触場面を分析する際に、まず一方に、社会政策学的アプローチに対応する形で、階層区分の基準をとり、生活主体を垂直的に分類する。他方、地域社会学的アプローチに対応する形で、「土着型」と「流動型」という類型化を設定する。さらに、生活主体と文化体系との接触の諸様態について、一方に、時代の支配的な「文化」標準に同調か、非同調かという軸を設定する。他方では、生活目標の焦点を私生活場面に自閉して生活の「私化」を志向するか、逆に私生活を社会化していく方向に目標の焦点を設定し、主体自身の「公共化」を志向するかという軸を設定する。このようにした上で、前者の4類型が後者の4類型とどのように接続するかという問題には、一義的な解答はありえないとし、むしろその関連を経験的に追跡するこ

とこそ、生活構造論の実質的な内容であろうとしている。本研究では、この鈴木的生活構造の類型化に依拠し、障害者の生活構造とスポーツ実践の様相を明らかにしていく。具体的には、階層区分は「一ヶ月の小遣い」「職業」、土着―流動は「車の免許の有無」「外出状況」、私化―公共化は「理想の生き方」「近所付き合い」「地域社会活動」、同調性は「健康番組の視聴」を調査項目として設定することとした。

ところで、生活構造分析では、基本的にその分析単位を個人に求めるものの、個人の暮らしが影響を受けるであろう地域の社会構造の規定力についても考慮しなければならない。そこで本研究では地域別に対象者の生活構造及びスポーツ実践を分析することとした。その際、地域の枠組みをどのように捉えるかが大きな問題となることは言うまでもない。特に中山間地の分析においては、集落単位、字単位での暮らしの分析は非常に重要であろう。しかし、今回対象とした芦北町は、合併を繰り返し、市街地地区に人口が集中しており、さらに、現代社会の特徴としての生活圏及び職域圏の拡散が予想される。また過去の調査から（後藤、2006）、意識面での土着性、公共性が薄れていることなどが明らかになっている。これらのことを踏まえ、今回は旧町村単位での分析を行うこととした。その理由の一つは、現在では障害者が地域生活を営む上で、行政（福祉）サービスが重要な位置を占めており、特に在宅サービスの方向性の中では行政区的な地域分析が必要であること、もう一つは対象とする芦北町が5つの旧町村から成り立っており、それぞれに市街地、旧市街地、中山間地、山間地といった地理的特性を有していることから、地域社会構造の影響を確認するうえでは有効であると考えたからである。

2) 調査の方法

(1) 調査方法

表1 調査方法

調査方法	調査対象	サンプル数	調査期間
アンケート調査 (留置法・一部面接式)	熊本県芦北町在住の 障害者(15歳以上の男 女)670名	392(58.5%)	2006.11～12

(2) 調査項目

【基本的属性】

性別・年齢・障害種・障害等級・障害発生時期

【生活構造】

家族構成・一ヶ月の小遣い・学歴・職業・車の免許の有無・外出状況・理想の生き方・地域社会活動・近所付き合い・健康番組の視聴

【スポーツ実践】

実施種目・実施頻度・実施仲間

3. 結 果

1) 芦北町と対象地区

芦北町は、熊本県の南部に位置し総面積 233.71 km²の中山間地である。町の約 80%が山林で、西側には天草の島々を望む県立自然公園指定のリアス式海岸、東は急流下りで有名な球磨川に隣接している。南北に九州を縦断する国道 3 号線及び JR 鹿児島本線が走り、北は八代市、南は水俣市という地方都市に挟まれている。今回の調査では、田浦（H17 合併）、佐敷（S30 合併）、湯浦（S45 合併）、大野（S30 合併）、吉尾（S30 合併）の旧町村別に分析を行った。国道及び JR の沿線にあるのが田浦、佐敷、湯浦でそれぞれに駅舎があり、市街地を形成している。大野、吉尾はいずれも東側の山間部に位置し非常に山深い地域である。各地区の概要を表 2 に示した。田浦及び佐敷はいわゆる市街地であり、芦北町の半数以上がこの両地区に居住している。国道及び鉄道沿いにあるため比較的交通の便は良い。高齢化率はそれぞれ 33.7%、32.3%となっている。芦北町の行政・教育機関は佐敷に集中しているものの、田浦にも旧葦北郡田浦町時代の機関が残っており機能している。湯浦も同様に国道及び鉄道沿いに位置するが、隣接する水俣市に人口が流入するなど過疎化が進んでいる。先の 2 地区同様世帯の極小化が進んでおり、高齢化率は 30.7%となっている。大野は山間部にあり、先の 3 地区に比較すると人口は極端に少なく過疎化が進んでいる。高齢化率は 33.7%と変わらないが、世帯の極小化は他の地区よりも進んでいない。最後に吉尾であるが、この地区は典型的な過疎農山村であり、山深い地域にあたる。人口も少なく、世帯の極小化、高齢化（45.1%）が進んでいる。役場までの距離（平均 20km）も遠く交通の便が悪い。

表2 地区の概要

地 区	人 口	世帯数(平均 世帯人員)	高齢化率	役場までの 平均距離
全 体	20,842人	7421(2.81人)	33.10%	8.9km
田 浦	5064人 (24.3%)	1818(2.79人)	33.70%	9.0km
佐 敷	7103人 (34.1%)	2488(2.85人)	32.30%	3.8km
湯 浦	5714人 (27.4%)	2060(2.77人)	30.70%	6.0km
大 野	1947人 (9.3%)	622(3.13人)	33.70%	13.4km
吉 尾	1014人 (4.9%)	433(2.34人)	45.10%	20.0km

2) 芦北町の障害者の実態

(1) 芦北町の障害者の概要（芦北町障害者プランより）

芦北町における障害者の数は1991人で、総人口の約10%を占めている（平成18年）。内訳は身体障害1653人、知的障害187人、精神障害151人となっている。等級別でみると、1級423人、2級311人、3級234人、4級413人、5級104人、6級168人となっており、重度（1級・2級）の身体障害者が全体の約45%を占めている。障害別では、肢体不自由者が922名と全体の約56%を占めている。次いで、内部障害（約21%）、聴覚障害（約14%）、視覚障害（約10%）、音声・言語障害（約1%）の順となっている。年齢別では、特に身体障害において、65歳以上を占める割合が約77%と高齢化が進んでいる。

(2) サンプルの概要

表3にサンプルの基本的属性を示した。サンプルの規模は芦北町の障害者の約20%となっている。性別は男性55.2%、女性44.8%となっており、地区別で見ると田浦と大野で特に男性の割合が多くなっている。年齢では、60歳代以上が65.2%を占めており、高齢化が進んでいることが伺える。障害種別では肢体不自由が43.4%と最も多かった。障害の発生時期では先天性19.9%、後天性63.4%となっている。障害等級は1・2級の重度の身体障害が全体の44.2%を占めている。

3) 各地区の障害者の生活とスポーツ実践

表4に障害者の生活の概要、表5にスポーツ実践者の生活の概要、表6～8に実施種目別の生活の概要を示した。以下、地区ごとにその概要について述べていくこととする。

(1) 田浦地区

在宅高齢者が多い地区である。障害では、後天性で比較的軽度の者が多く、聴覚障害者の割合が多い。家族構成としては比較的多世代家族が多い。階層性（上層～下層）は2極化しており、流動性（移動性）は比較的高い。外出状況をみると、家族のサポート、あるいは、一人で外出可能な者が多い。公共性の志向はあまり強くなくどちらかといえば私化の傾向にある。比較的同調性が強い。

スポーツ実践者は、グラウンドゴルフ11名、リハビリ5名、散歩・ジョギング10名、ソフトボール、サッカー、ボウリングが各1名となっている。障害別では肢体不自由の者の実施率が低く、一方、重度の者の実施率が高いという特徴が見られる。階層的には上層の者ほど実施する傾向にあり、流動性（移動性）では差は見られない。地域社会での公共性の志向及び同調性の志向が認められる。

グラウンドゴルフ実践者（11名）の特徴は、全員が60歳以上、肢体不自由の実践者はおらず、聴覚障害（6名）及び軽度の障害（7名）が多い。上層の者（一ヶ月の小遣い1万円以上）が比較的多く（5名）、流動性（移動性）は高い。地域社会における公共性の志向及び同調性が高い。

散歩・ジョギング実践者では、分析可能な回答者6名であったため、ここでは個別の事例から特徴的なことを述べておく。障害面では、60歳以上の3名は後天性で重度、内部障害であり、50歳代以下の3名は先天性で重度である。ほとんどが上層に位置し、流動性（移動性）は低い。高齢の者は地域社会とのつながりが認められ、同調性も強い。

ソフトボールを実践している者は51歳男性で、軽度の肢体不自由である。一人で外出が可能であり上層

表3 サンプルの基本的属性

N(%)

	全 体	田 浦	佐 敷	湯 浦	大 野	吉 尾
サンプル数	392(100.0%)	92(23.5%)	141(36.1%)	116(29.7%)	33(8.4%)	9(2.3%)
性 別	男=216(55.2%) 女=176(44.8%)	男=56(61.5%) 女=36(38.5%)	男=76(53.9%) 女=65(46.1%)	男=59(50.9%) 女=57(49.1%)	男=20(60.6%) 女=13(39.4%)	男=5(55.6%) 女=4(44.4%)
年 齢	50歳代以下=136(34.6%) 60歳代以上=255(65.2%)	50歳代以下=15(16.3%) 60歳代以上=77(83.7%)	50歳代以下=71(50.4%) 60歳代以上=70(49.6%)	50歳代以下=42(36.5%) 60歳代以上=73(63.5%)	50歳代以下=4(12.1%) 60歳代以上=29(87.9%)	50歳代以下=3(33.3%) 60歳代以上=6(66.7%)
障害の種類	肢体不自由=170(43.4%) 言語等=23(5.9%) 心臓腎臓等=59(15.1%) 聴覚等=53(13.5%) 知的障害=78(19.6%) 精神障害=18(4.6%)	肢体不自由=37(40.2%) 言語等=9(9.8%) 心臓腎臓等=17(18.5%) 聴覚等=20(21.7%) 知的障害=8(8.7%) 精神障害=3(3.3%)	肢体不自由=51(36.2%) 言語等=9(5.7%) 心臓腎臓等=18(12.8%) 聴覚等=18(12.8%) 知的障害=57(40.4%) 精神障害=10(7.1%)	肢体不自由=64(55.2%) 言語等=2(1.7%) 心臓腎臓等=11(9.5%) 聴覚等=9(7.8%) 知的障害=11(9.5%) 精神障害=5(4.3%)	肢体不自由=14(42.4%) 言語等=3(9.1%) 心臓腎臓等=8(24.2%) 聴覚等=6(18.2%) 知的障害=1(3.0%) 精神障害=0(0.0%)	肢体不自由=4(44.4%) 言語等=1(11.1%) 心臓腎臓等=5(55.6%) 聴覚等=0(0.0%) 知的障害=0(0.0%) 精神障害=0(0.0%)
障害の発生時期	先天性=60(19.9%) 乳幼児期=20(6.6%) 学童期=20(6.6%) 成人期=151(50.2%) 分からない=50(16.6%)	先天性=7(9.9%) 乳幼児期=3(4.2%) 学童期=7(9.9%) 成人期=45(63.4%) 分からない=9(12.7%)	先天性=34(30.1%) 乳幼児期=9(8.0%) 学童期=4(3.50%) 成人期=43(38.1%) 分からない=23(20.4%)	先天性=15(18.3%) 乳幼児期=8(9.8%) 学童期=8(9.8%) 成人期=42(51.2%) 分からない=9(11.0%)	先天性=4(15.4%) 乳幼児期=0(0.0%) 学童期=1(3.8%) 成人期=13(50.0%) 分からない=8(30.8%)	先天性=0(0.0%) 乳幼児期=0(0.0%) 学童期=0(0.0%) 成人期=8(88.9%) 分からない=1(11.1%)
障害等級	1・2級=136(44.2%) 3級以下=137(43.9%) 重度=28(9.0%) 中・軽度=9(2.9%)	1・2級=33(40.2%) 3級以下=47(57.3%) 重度=1(1.2%) 中・軽度=1(1.2%)	1・2級=37(34.9%) 3級以下=38(35.8%) 重度=25(23.6%) 中・軽度=6(5.7%)	1・2級=54(65.1%) 3級以下=26(31.3%) 重度=1(1.2%) 中・軽度=2(2.4%)	1・2級=9(28.1%) 3級以下=22(68.8%) 重度=1(3.1%) 中・軽度=0(0.0%)	1・2級=4(50.0%) 3級以下=4(50.0%) 重度=0(0.0%) 中・軽度=0(0.0%)

に位置する。公共性、同調性の志向は高くない。

なお、サッカー及びボウリングの実践者は20歳以下のため分析から除外した。

(2) 佐敷地区

施設入所で知的障害（先天性）が多い地区である。50歳代以下の者が比較的多く、在宅の者は核家族や夫婦二世帯が多い。比較的下層に位置し、福祉的サポートのある者以外は流動性（移動性）が低い。私化—公共化及び同調—非同調の2極化が認められる。

スポーツ実践者は、グラウンドゴルフ13名、リハビリ31名、散歩・ジョギング10名、水泳2名、ミニバレー・ゴルフ・自転車各1名となっている。50歳代以下の実践者の割合は他の地区よりも多いものの、全体としては60歳代以上の実践者が多い（61.5%）。障害の種類に関係なく一定の実践者が存在するが、田浦地区と同じく聴覚障害の実践者が多く、この地区の特徴である知的障害（入所者）の実践者が多くなっている。在宅でみると、この地区が市街地ということもあり、多世代家族の割合が少なかった。階層的な特徴はみられないが、流動性（移動性）が比較的高く、移動に関する地域のサポートの存在が伺える。地域社会との関係性や公共性の志向を持つものが実践する傾向にある。実践者の中にはこの地区全体の特徴と同様に同調—非同調の者が混在しているが、同調性のより強い者ほど実践している傾向にある。

グラウンドゴルフ実践者はほとんどが60歳代以上の肢体不自由及び聴覚障害であり（11名）、聴覚障害で軽度障害の実践者が多いのが特徴的である。知的障害の実践者はいない。階層的には上層に位置する者が実践している傾向にあり、流動性（移動性）が高い。地域社会における公共性の志向が強く、また同調性の強い者が実践している傾向にある。

散歩・ジョギングの実践者は、年齢的には20歳代から70歳代まで幅があり、障害による差異は見られない。階層的にも特徴は見られないが、流動性（移動性）は低い。公共性、同調性との関係は特にみられない。

水泳を実践している者は、28歳の男性である（もう一人は15歳なので分析から外した）。重度の知的障害であるが、流動性（移動性）は高い（車の免許有、一人で外出可能）。地域社会とのつながりはそれほど強くない、また、同調性は低い。

ミニバレー実践者は39歳の男性である。知的障害があり施設で生活している。地域社会とのつながりは薄く、施設内でのスポーツ実践に止まっていると思われる。

ゴルフ実践者は、55歳の男性である。障害については不明であるが、比較的上層で流動性（車の免許有、

一人で外出可能）もある。地域社会における公共性及び同調性の志向が確認される。

自転車を行っている者は63歳の男性で独居生活者である。比較的下層に位置するが、軽度の肢体不自由（後天性）であり、流動性（車の免許有、一人で外出可能）は高い。公共性の志向は低い。

(3) 湯浦地区

施設入所で肢体不自由（後天性）が多い。比較的高齢で重度の者が多い。階層的には上層に位置し土着的である。公共化の志向があり、同調—非同調に2極化している。

スポーツ実践者は、グラウンドゴルフ10名、リハビリ2名、散歩1名、ミニバレー3名、ゴルフ3名、野球1名（15歳以下のため分析から除外）である。障害や年齢及び階層による実践の差異は見られない。したがって、実践者の割合も肢体不自由で高齢の比較的上層の者が多くなっている。しかし、流動性（移動性）、公共性の志向（地域社会とのつながり）、同調性の志向がより強い者ほど実践している傾向が伺えた。

グラウンドゴルフ実践者では9名が60歳以上であるが、性別で見ると男女が半数ずつとなっている。知的・精神障害の実践者はおらず、すべて身体障害である。地域の特徴を反映し、重度の実践者（3名）がおり、階層的に上層で流動性（移動性）の低い実践者が多い。公共性及び同調性の志向が比較的高い者が実践している。

散歩の実践者は年齢・障害とも不明であるが（男性）、階層的に上層で流動性も高い（車の免許有、家族と外出）。公共性及び同調性の志向が高い。

ミニバレーの実践者は、60歳以上の男性2名と30歳代の女性1名である。男性はいずれも重度の施設入所で階層的には下層に位置する。流動性、公共化及び同調性の志向は低く、施設内実践に止まっている。女性の実践者も重度の障害（精神障害）で下層に位置する。車の免許は持つものの、地域社会とのつながりは薄く同調性の志向も低い。

ゴルフの実践者は、比較的高齢（50歳以上）で、軽度の身体障害である。階層的には上層に位置し、流動性があるが（全て車の免許有）、公共性及び同調性の志向では特に特徴は認められない。

(4) 大野地区

在宅（夫婦世帯）で身体障害（後天性）が多い。高齢で軽度障害が多い。階層的には下層で流動性（移動性）は高い。公共化の志向は低いものの、実際の生活の中で地域社会との結びつきが強い。同調性の指向は強い。

スポーツ実践者はグラウンドゴルフ4名、ゲートボール4名、リハビリ1名、散歩1名、車椅子バスケット1名である。

グラウンドゴルフ及びゲートボール実践者は全てが60歳以上の身体障害（比較的軽度）である。階層的には上層に位置し、この地区の障害者全体の移動性（車の免許有）が高いことを反映し、実践者の移動性も高い傾向にある。また、公共化の志向についても、障害者全体の傾向と同じく、公共化の志向は低いものの、実際の生活の中で地域社会との結びつきが強い実践者が多い。

散歩の実践者は、77歳の女性で、軽度の肢体不自由である。階層的には下層であり流動性は低い。公共化の志向は低いものの、地域との結びつきは強く、同調性も高い。

車椅子バスケットの実践者は、39歳の男性で重度の肢体不自由である。車の免許があり、家族とともに外出が可能である。地域社会との結びつき及び同調性は低い。

(5) 吉尾地区

過疎化、高齢化が極端に進む吉尾地区では、今回の調査では9名の障害者から回答があった。市街地区から距離があり（平均20km）、行政の福祉サービスを受けることが難しいこの地区では障害者の数も少ない。対象者の全てが在宅であり、比較的高齢で後天性の障害が多い。階層的には下層であるが、流動性がある。公共化及び同調の傾向が強いことが伺える。

スポーツ実践者はグラウンドゴルフ3名、ゲートボール1名が確認された。50歳代以下1名、60歳代以

表4 障害者の生活構造

N(%)

		全体	田 浦	佐 敷	湯 浦	大 野	吉 尾
家族構成		単独=29(8.1%) 夫婦二人=88(24.6%) 核家族=107(30.0%) 多世代=43(12.6%) 施設入所=83(24.6%)	単独=3(3.6%) 夫婦二人=28(33.7%) 核家族=32(38.6%) 多世代=18(21.7%) 施設入所=2(2.4%)	単独=12(9.5%) 夫婦二人=32(25.4%) 核家族=28(22.2%) 多世代=6(4.8%) 施設入所=48(38.1%)	単独=9(8.5%) 夫婦二人=19(17.9%) 核家族=26(24.5%) 多世代=14(13.2%) 施設入所=38(35.8%)	単独=3(9.4%) 夫婦二人=8(25.0%) 核家族=16(50.0%) 多世代=5(15.6%) 施設入所=0(0.0%)	単独=2(2.2%) 夫婦二人=1(11.1%) 核家族=4(44.4%) 多世代=2(22.2%) 施設入所=0(0.0%)
		1万円未満=146(52.7%) 1万円以上=131(47.3%)	1万円未満=40(54.1%) 1万円以上=34(45.9%)	1万円未満=63(59.6%) 1万円以上=36(40.4%)	1万円未満=36(43.9%) 1万円以上=46(56.1%)	1万円未満=12(50.0%) 1万円以上=12(50.0%)	1万円未満=4(57.1%) 1万円以上=3(42.9%)
階層性	1ヶ月の小遣い						
	学 歴	義務教育=205(61.6%) 高校=88(26.4%) 大学等=20(6.0%)	義務教育=53(67.9%) 高校=15(19.2%) 大学等=6(7.7%)	義務教育=65(54.6%) 高校=36(30.3%) 大学等=7(5.9%)	義務教育=57(57.6%) 高校=31(31.3%) 大学等=6(6.1%)	義務教育=24(82.8%) 高校=5(17.2%) 大学等=0(0.0%)	義務教育=5(71.4%) 高校=1(14.3%) 大学等=1(4.3%)
流動性	職 業	一般職=38(10.9%) 福祉職=22(6.3%) 年金等=253(72.3%) 無収入(被扶養)=75(21.4%)	一般職=16(17.4%) 福祉職=0(0.0%) 年金等=51(55.4%) 無収入(被扶養)=24(26.1%)	一般職=6(4.3%) 福祉職=12(8.5%) 年金等=98(69.5%) 無収入(被扶養)=24(17.0%)	一般職=12(10.3%) 福祉職=10(8.6%) 年金等=79(68.1%) 無収入(被扶養)=15(12.9%)	一般職=3(9.1%) 福祉職=0(0.0%) 年金等=19(57.6%) 無収入(被扶養)=8(24.2%)	一般職=1(11.1%) 福祉職=0(0.0%) 年金等=5(55.6%) 無収入(被扶養)=4(44.4%)
	車の免許所有	有=129(34.3%) 無=247(65.7%)	有=38(43.7%) 無=49(56.3%)	有=32(23.7%) 無=103(76.3%)	有=33(29.7%) 無=78(70.3%)	有=19(57.6%) 無=14(42.4%)	有=7(77.8%) 無=2(22.2%)
公共性	外出状況	一人=135(36.4%) 家族=116(31.3%) 友人=24(6.5%) ボランティア=36(9.7%) ボランティア以外=11(3.0%) 外出なし=62(16.7%)	一人=37(40.2%) 家族=43(46.7%) 友人=2(2.2%) ボランティア=3(3.3%) ボランティア以外=1(1.1%) 外出なし=12(13.0%)	一人=43(30.5%) 家族=27(19.1%) 友人=6(4.3%) ボランティア=30(21.3%) ボランティア以外=6(4.3%) 外出なし=22(15.6%)	一人=35(30.2%) 家族=29(25.0%) 友人=13(11.2%) ボランティア=3(2.6%) ボランティア以外=4(3.4%) 外出なし=26(22.4%)	一人=14(42.4%) 家族=15(45.5%) 友人=1(3.0%) ボランティア=0(0.0%) ボランティア以外=0(0.0%) 外出なし=2(6.1%)	一人=6(66.7%) 家族=1(11.1%) 友人=2(22.2%) ボランティア=0(0.0%) ボランティア以外=0(0.0%) 外出なし=0(0.0%)
	理想の生き方	社会=26(9.0%) 地域=67(23.2%) 正しく=38(12.5%) 勉強=20(7.7%) 金持ち=1(1.4%) 趣味=30(10.4%) のんき=124(42.9%)	社会=10(13.5%) 地域=6(6.8%) 正しく=13(17.6%) 勉強=0(0.0%) 金持ち=1(1.4%) 趣味=8(10.8%) のんき=37(50.0%)	社会=5(5.8%) 地域=24(27.9%) 正しく=8(10.5%) 勉強=1(1.2%) 金持ち=2(2.3%) 趣味=8(9.3%) のんき=37(43.0%)	社会=5(5.4%) 地域=33(35.5%) 正しく=9(9.7%) 勉強=1(1.1%) 金持ち=0(0.0%) 趣味=10(10.8%) のんき=35(37.6%)	社会=5(18.5%) 地域=1(3.7%) 正しく=4(14.8%) 勉強=0(0.0%) 金持ち=1(3.7%) 趣味=4(14.8%) のんき=124(44.4%)	社会=1(11.1%) 地域=4(44.4%) 正しく=1(11.1%) 勉強=0(0.0%) 金持ち=0(0.0%) 趣味=0(0.0%) のんき=3(33.3%)
同調性	地域社会活動	参加=102(27.5%) 不参加=269(72.5%)	参加=25(28.7%) 不参加=62(71.3%)	参加=34(25.8%) 不参加=98(74.2%)	参加=26(23.6%) 不参加=84(76.4%)	参加=13(39.4%) 不参加=20(60.6%)	参加=3(37.5%) 不参加=5(62.5%)
	近所付き合い	親し=164(43.5%) 挨拶程度=130(34.5%) ほとんど無し=34(9.0%) 全く無し=48(13.0%)	親し=45(49.5%) 挨拶程度=37(40.7%) ほとんど無し=6(6.6%) 全く無し=3(3.3%)	親し=43(32.3%) 挨拶程度=51(38.3%) ほとんど無し=25(18.8%) 全く無し=14(10.5%)	親し=51(46.4%) 挨拶程度=24(21.8%) ほとんど無し=3(2.7%) 全く無し=32(29.1%)	親し=20(60.6%) 挨拶程度=13(39.4%) ほとんど無し=0(0.0%) 全く無し=0(0.0%)	親し=5(55.6%) 挨拶程度=4(44.4%) ほとんど無し=0(0.0%) 全く無し=0(0.0%)
同調性	健康番組の視聴	見て取られる=137(39.8%) 見る=99(28.8%) あまり見ない=64(18.6%) 全く見ない=43(12.5%)	見て取られる=34(40.5%) 見る=34(40.5%) あまり見ない=12(14.3%) 全く見ない=4(4.8%)	見て取られる=37(32.2%) 見る=28(24.3%) あまり見ない=33(28.7%) 全く見ない=16(13.9%)	見て取られる=46(43.8%) 見る=28(24.3%) あまり見ない=15(14.3%) 全く見ない=23(21.9%)	見て取られる=15(48.4%) 見る=12(38.7%) あまり見ない=4(12.9%) 全く見ない=0(0.0%)	見て取られる=5(55.6%) 見る=4(44.4%) あまり見ない=0(0.0%) 全く見ない=0(0.0%)

表5 スポーツ実践者の生活構造

N

		全体	田 浦	佐 敷	湯 浦	大 野	吉 尾
実施頻度 N(%)	実施頻度 N(%)	してゐる=140(49.6%) 年2回数=27(9.6%) 月に1~3日=28(9.9%) 週に1~2日=28(9.9%) 週3日=58(20.9%)	してゐる=35(52.2%) 年2回数=6(9.06%) 月に1~3日=9(13.4%) 週に1~2日=8(11.9%) 週3日=9(13.4%)	してゐる=37(37.4%) 年2回数=7(7.1%) 月に1~3日=10(10.1%) 週に1~2日=13(13.1%) 週3日=32(32.3%)	してゐる=53(66.3%) 年2回数=12(15.0%) 月に1~3日=4(5.0%) 週に1~2日=3(3.8%) 週3日=8(10.0%)	してゐる=10(35.7%) 年2回数=1(3.6%) 月に1~3日=5(17.9%) 週に1~2日=4(14.3%) 週3日=8(28.6%)	してゐる=5(62.5%) 年2回数=1(12.5%) 月に1~3日=0(0.0%) 週に1~2日=0(0.0%) 週3日=2(25.0%)
	実施種目 N	グラントゴルフ=41 ゲートボール=5 リハビリ=39 散歩・ジョギング=22 ミニ・レー=4 ゴルフ=4 水泳=2 サッカー=1 ボウリング=1 自転車=1 野球=1 車椅子・スケ=1	グラントゴルフ=11 リハビリ=5 散歩・ジョギング=10 ソフトボール=1 サッカー=1 ボウリング=1	グラントゴルフ=13 リハビリ=31 散歩・ジョギング=10 水泳=2 ミニ・レー=1 ゴルフ=1 自転車=1	グラントゴルフ=10 リハビリ=2 散歩・ジョギング=1 ミニ・レー=3 ゴルフ=3 野球=1	グラントゴルフ=4 ゲートボール=4 リハビリ=1 散歩・ジョギング=1 車椅子・スケ=1	グラントゴルフ=3 ゲートボール=1
実施期間 N	実施期間 N	一人=21 友達・施設の人=65 チームメイト=30 家族=3	一人=6 友達・施設の人=10 チームメイト=6 家族=2	一人=14 友達・施設の人=34 チームメイト=9 家族=1	一人=1 友達・施設の人=15 チームメイト=5 家族=0	一人=0 友達・施設の人=5 チームメイト=7 家族=0	一人=0 友達・施設の人=1 チームメイト=3 家族=0
	障害の種類 N	肢体不自由=25 言語等=4 心臓腎臓等=14 聴覚等=17 知的障害=11 精神障害=3	肢体不自由=3 言語等=1 心臓腎臓等=6 聴覚等=6 知的障害=3 精神障害=0	肢体不自由=9 言語等=1 心臓腎臓等=2 聴覚等=7 知的障害=7 精神障害=1	肢体不自由=6 言語等=1 心臓腎臓等=2 聴覚等=1 知的障害=1 精神障害=2	肢体不自由=6 言語等=0 心臓腎臓等=2 聴覚等=0 知的障害=0 精神障害=0	肢体不自由=1 言語等=1 心臓腎臓等=2 聴覚等=0 知的障害=0 精神障害=0
障害等級 N	障害等級 N	1・2級=28 3級以下=30 重度=1 中・軽度=1	1・2級=11 3級以下=8 重度=1 中・軽度=0	1・2級=5 3級以下=8 重度=0 中・軽度=1	1・2級=7 3級以下=6 重度=0 中・軽度=	1・2級=3 3級以下=7 重度=0 中・軽度=0	1・2級=2 3級以下=1 重度=0 中・軽度=0
	障害の発生時期 N	先天性=11 乳幼児期=5 学童期=2 成人期=30 分からない=10	先天性=3 乳幼児期=2 学童期=1 成人期=9 分からない=2	先天性=5 乳幼児期=0 学童期=0 成人期=7 分からない=4	先天性=2 乳幼児期=3 学童期=0 成人期=6 分からない=1	先天性=1 乳幼児期=0 学童期=1 成人期=4 分からない=3	先天性=0 乳幼児期=0 学童期=0 成人期=4 分からない=0
階層性	1ヶ月の小遣い N	1万円未満=27 1万円以上=36	1万円未満=6 1万円以上=10	1万円未満=8 1万円以上=10	1万円未満=7 1万円以上=9	1万円未満=3 1万円以上=6	1万円未満=3 1万円以上=1
	職 業 N	一般就労=10 福祉就労=2 年金等=50 無収入(被扶養)=18	一般就労=5 福祉就労=0 年金等=10 無収入(被扶養)=5	一般就労=2 福祉就労=1 年金等=18 無収入(被扶養)=5	一般就労=3 福祉就労=1 年金等=14 無収入(被扶養)=2	一般就労=0 福祉就労=0 年金等=7 無収入(被扶養)=3	一般就労=0 福祉就労=0 年金等=1 無収入(被扶養)=3
流動性	車の免許所有 N	有=40 無=34	有=8 無=9	有=15 無=10	有=8 無=10	有=3 無=4	有=3 無=1
	外出状況 N	一人=39 家族=22 友人=6 ボランティア=7 計外活動=1 外出しない=2	一人=12 家族=7 友人=0 ボランティア=1 計外活動=1 外出しない=0	一人=14 家族=3 友人=3 ボランティア=5 計外活動=1 外出しない=1	一人=7 家族=5 友人=2 ボランティア=1 計外活動=1 外出しない=1	一人=4 家族=6 友人=0 ボランティア=0 計外活動=0 外出しない=0	一人=2 家族=1 友人=1 ボランティア=0 計外活動=0 外出しない=0
公共性	理想の生き方 N	社会=9 地域=24 正しく=11 勉強=0 金持ち=0 趣味=10 のんき=13	社会=5 地域=1 正しく=5 勉強=0 金持ち=0 趣味=2 のんき=4	社会=1 地域=11 正しく=2 勉強=0 金持ち=0 趣味=4 のんき=4	社会=1 地域=9 正しく=2 勉強=0 金持ち=0 趣味=2 のんき=2	社会=1 地域=0 正しく=2 勉強=0 金持ち=0 趣味=2 のんき=3	社会=1 地域=3 正しく=0 勉強=0 金持ち=0 趣味=0 のんき=0
	近所付き合い N	親しい=48 挨拶程度=26 ほとんど無し=3 全く無し=2	親しい=12 挨拶程度=7 ほとんど無し=1 全く無し=0	親しい=16 挨拶程度=9 ほとんど無し=1 全く無し=0	親しい=9 挨拶程度=7 ほとんど無し=1 全く無し=2	親しい=8 挨拶程度=2 ほとんど無し=0 全く無し=0	親しい=3 挨拶程度=1 ほとんど無し=0 全く無し=0
同僚性	健康番組の視聴 N	見て取られる=36 見る=26 あまり見ない=8 全く見ない=3	見て取られる=7 見る=10 あまり見ない=2 全く見ない=0	見て取られる=12 見る=6 あまり見ない=5 全く見ない=1	見て取られる=10 見る=4 あまり見ない=0 全く見ない=2	見て取られる=5 見る=4 あまり見ない=1 全く見ない=0	見て取られる=2 見る=2 あまり見ない=0 全く見ない=0

表6 グラウンドゴルフ（ゲートボール）実施者の生活構造

実施者		全体	田 浦	佐 敷	湯 浦	大 野	吉 尾	
N		46	11	13	10	8	4	
障害の種類	N	肢体不自由＝14 言語等＝3 心臓腎臓等＝9 聴覚等＝14 知的障＝1	肢体不自由＝0 言語等＝1 心臓腎臓等＝2 聴覚等＝6 知的障＝1	肢体不自由＝6 言語等＝0 心臓腎臓等＝1 聴覚等＝5 知的障＝0	肢体不自由＝3 言語等＝1 心臓腎臓等＝2 聴覚等＝0 知的障＝0	肢体不自由＝4 言語等＝0 心臓腎臓等＝2 聴覚等＝3 知的障＝0	肢体不自由＝1 言語等＝1 心臓腎臓等＝2 聴覚等＝0 知的障＝0	
	障害等級	N	1・2級＝14 3級以下＝23	1・2級＝4 3級以下＝7	1・2級＝3 3級以下＝5	1・2級＝3 3級以下＝4	1・2級＝2 3級以下＝6	1・2級＝2 3級以下＝1
	階層性	1ヶ月の小遣い <th>N</th> <td>1万円未満＝14 1万円以上＝23</td> <td>1万円未満＝3 1万円以上＝5</td> <td>1万円未満＝3 1万円以上＝6</td> <td>1万円未満＝2 1万円以上＝6</td> <td>1万円未満＝3 6万円以上＝1</td>	N	1万円未満＝14 1万円以上＝23	1万円未満＝3 1万円以上＝5	1万円未満＝3 1万円以上＝6	1万円未満＝2 1万円以上＝6	1万円未満＝3 6万円以上＝1
	流動性	車の免許所有	N	有＝28 無＝15	有＝7 無＝3	有＝10 無＝2	有＝3 無＝6	有＝5 無＝3
外出状況		N	一人＝26 家族＝11 友人＝4 ボランティア＝3 しつけサポートしない＝1	一人＝7 家族＝3 友人＝0 ボランティア＝1 しつけサポートしない＝0	一人＝9 家族＝1 友人＝2 ボランティア＝1 しつけサポートしない＝0	一人＝4 家族＝2 友人＝1 ボランティア＝1 しつけサポートしない＝1	一人＝4 家族＝4 友人＝0 ボランティア＝0 しつけサポートしない＝0	一人＝2 家族＝1 友人＝1 ボランティア＝0 しつけサポートしない＝0
公共性	理想の生き方	N	社会＝6 地域＝17 正しく＝7 勉強＝0 金持ち＝0 趣味＝6 のんき＝5	社会＝3 地域＝1 正しく＝3 勉強＝0 金持ち＝0 趣味＝1 のんき＝2	社会＝0 地域＝8 正しく＝2 勉強＝0 金持ち＝0 趣味＝2 のんき＝1	社会＝1 地域＝5 正しく＝0 勉強＝0 金持ち＝0 趣味＝1 のんき＝1	社会＝1 地域＝0 正しく＝2 勉強＝0 金持ち＝0 趣味＝2 のんき＝1	社会＝1 地域＝3 正しく＝0 勉強＝0 金持ち＝0 趣味＝0 のんき＝0
	近所付き合い	N	親しい＝37 挨拶程度＝7 ほとんど無し＝0 全く無し＝2	親しい＝8 挨拶程度＝3 ほとんど無し＝0 全く無し＝0	親しい＝12 挨拶程度＝1 ほとんど無し＝0 全く無し＝0	親しい＝7 挨拶程度＝1 ほとんど無し＝0 全く無し＝2	親しい＝7 挨拶程度＝1 ほとんど無し＝0 全く無し＝0	親しい＝3 挨拶程度＝1 ほとんど無し＝0 全く無し＝0
同調性	健康番組の視聴	N	見て取入れる＝26 見る＝16 あまり見ない＝2 全く見ない＝0	見て取入れる＝5 見る＝5 あまり見ない＝1 全く見ない＝0	見て取入れる＝9 見る＝4 あまり見ない＝0 全く見ない＝0	見て取入れる＝6 見る＝2 あまり見ない＝0 全く見ない＝0	見て取入れる＝4 見る＝3 あまり見ない＝1 全く見ない＝0	見て取入れる＝2 見る＝2 あまり見ない＝0 全く見ない＝0

表7 散歩・ジョギング実施者の生活構造

個人No.	年齢	性別	障害の種類	障害の程度	障害の発生時期	小遣い	車の免許	外出状況	近所付き合い	理想の生き方	健康番組の視聴
田浦1	74	男	心臓・腎臓等	1・2級	成人期	1万円以上	有	家族	親しく	清く正しく	見て取入れる
田浦2	83	男	心臓・腎臓等	1・2級	成人期	1万円以上	無	一人	挨拶程度	のんき	出来るだけ見る
田浦3	80	男	心臓・腎臓等	1・2級	成人期	1万円以上	無	一人	親しく	社会	出来るだけ見る
田浦4	22	男	心臓・腎臓等	1・2級	先天性	1万円未満	無	家族	付き合いはない	-	出来るだけ見る
田浦5	51	男	その他	1・2級	先天性	1万円以上	無	一人	親しく	社会	出来るだけ見る
田浦6	17	男	知的障害	重度	先天性	-	-	家族	挨拶程度	のんき	-
佐敷1	72	女	肢体不自由	3級以下	-	1万円以上	有	一人	親しく	趣味	見て取入れる
佐敷2	68	女	肢体不自由	1・2級	-	1万円未満	無	しない	付き合いはない	-	-
佐敷3	67	女	心臓・腎臓等	3級以下	成人期	1万円以上	無	家族	親しく	のんき	見て取入れる
佐敷4	55	女	その他	1・2級	成人期	1万円以上	無	友人	親しく	地域	-
佐敷5	28	男	精神障害	-	-	1万円未満	有	一人	挨拶程度	趣味	あまり見ない
佐敷6	41	男	知的障害	-	先天性	-	無	ボランティア	挨拶程度	地域	全く見ない
佐敷7	45	男	知的障害	-	先天性	-	無	ボランティア	挨拶程度	-	出来るだけ見る
佐敷8	45	男	知的障害	-	先天性	-	無	ボランティア	挨拶程度	社会	あまり見ない
湯浦1	-	男	-	-	-	1万円以上	有	家族	親しく	地域	見て取入れる
大野1	77	女	肢体不自由	3級以下	成人期	1万円未満	無	家族	親しく	のんき	見て取入れる

表8 一般スポーツ実施者の生活構造

個人No.	実施種目	年齢	性別	障害の種類	障害の程度	障害の発生時期	小遣い	車の免許	外出状況	近所付き合い	理想の生き方	健康番組の視聴
田浦1	ソフトボール	51	男	肢体不自由	3級以下	乳幼児期	1万円以上	無	一人	挨拶程度	趣味	あまり見ない
田浦2	ボウリング	14	男	肢体不自由	1・2級	乳幼児期	1万円未満	無	家族	挨拶程度	-	出来るだけ見る
佐敷1	自転車	63	男	肢体不自由	3級以下	成人期	1万円未満	有	一人	挨拶程度	のんき	出来るだけ見る
佐敷2	水泳	15	男	知的障害	中・軽度	先天性	1万円未満	無	家族	挨拶程度	のんき	あまり見ない
佐敷3	水泳	28	男	知的障害	1・2級	-	1万円未満	有	一人	挨拶程度	-	あまり見ない
佐敷4	ミニバレー	39	男	知的障害	-	先天性	-	無	ボランティア	挨拶程度	-	あまり見ない
佐敷5	ゴルフ	55	男	-	-	-	1万円以上	有	一人	親しく	地域	見て取入れる
湯浦1	野球	15	男	肢体不自由	3級以下	先天性	1万円以上	無	一人	挨拶程度	地域	見て取入れる
湯浦2	ミニバレー	66	男	肢体不自由	1・2級	乳幼児期	1万円未満	無	しつけができない	挨拶程度	のんき	出来るだけ見る
湯浦3	ミニバレー	69	男	その他	1・2級	乳幼児期	1万円未満	無	しない	挨拶程度	清く正しく	全く見ない
湯浦4	ミニバレー	33	女	精神障害	1・2級	-	1万円未満	有	一人	付き合いはない	-	-
湯浦5	ゴルフ	51	男	肢体不自由	-	乳幼児期	-	有	家族	挨拶程度	清く正しく	出来るだけ見る
湯浦6	ゴルフ	50	男	-	-	-	1万円以上	有	友人	挨拶程度	地域	見て取入れる
湯浦7	ゴルフ	81	男	聴覚	3級以下	成人期	1万円以上	有	一人	親しく	地域	見て取入れる
大野1	車椅子バスケ	39	男	肢体不自由	1・2級	学齢期	-	有	家族	挨拶程度	のんき	出来るだけ見る

上が3名で、高齢の身体に障害のある（比較的軽度）実践者である。階層的には下層であるが移動性（車の免許有3名）がある。公共性の志向及び同調性が強い傾向にあり、地区の特徴を反映している。

4. 考 察

芦北町に住む障害者の約20%を対象とした調査によって、本研究では以下の点を明らかにすることができた。

基本的属性からは、地域社会全体の高齢化に伴う、高齢化・重度化の傾向、さらに、脳障害等の病後の障害の影響による後天性の肢体不自由や内部障害が多いことが明らかになった。

生活構造をみると、第一に、いずれの地域でも世帯の極小化が認められ、家族による福祉機能の外部化（福祉サービスへの依存）が進んでいる。第二に、階層的には下層に位置し、流動性は低い。第三に、地域社会に対する公共性の志向は低く、私生活主義への偏重が認められる。また、健常者同様、同調性が非常に強い。

スポーツ活動では、中山間地という地域構造の中、実践の量的側面は非常に少なく、その内容も、入所者によるリハビリを中心とした施設内運動及び高齢障害者によるグラウンドゴルフやゲートボールなどのいわゆる高齢者スポーツがほとんどである。量的にも質的にも決して豊かな状況にあるとは言えない障害者のスポーツ実践の一端を伺うことができる。

では、少数ではあるがスポーツを実践している者の生活構造についてみていくこととする。まず、障害の状況について確認しておくと、軽度の後天性障害が多いことが分かる。階層的には、対象者の中では上層に位置し、車の免許を保有するなど流動性は高い。地域社会への公共性の志向が強く、同調性も強い。

地区別でみると、山間部に位置する大野・吉尾地区では、実践者のほとんどが下層に位置する。一方、市街地を形成する田浦・佐敷・湯浦地区では、障害者全体の下層傾向は変わらないものの、比較的上層の実践者の割合が多い。この3地区に障害者の多くが居住していることから、実践者の階層的位置づけが比較的上層にあるという傾向を示す結果となった。また、前述したように流動性が高いほどスポーツを実践する傾向にあるが、このことは全ての地区に共通している。地区毎の流動性をみると、入所者の多い佐敷・湯浦地区では低くなっている。したがって、湯浦地区では実践率が低下している。しかし、佐敷地区の入所者は、比較的若年層で知的障害の者が多く、施設内で行われる

スポーツ活動に参加する機会が多いことから実践率が高くなっている。現代社会では一般的に私化の傾向が強いといわれるが、障害者も同じ傾向が認められた。特に、行政・教育機関や娯楽施設が集中し、交通の便の良い田浦・佐敷地区ではその傾向が強かった。ところが、スポーツ実践者の傾向は全ての地域で公共性の志向が強く、地域社会との関係性や人間関係の維持が実践の前提となっていることが伺えた。同調性については、全ての地区でその傾向が強く、地区間での差異は認められなかった。

種目でみると、グラウンドゴルフやゲートボール実践者は実践者全体と同じ傾向を示しているが、散歩（ジョギング）については、重度者や知的・精神障害者が含まれ、一人で行うリハビリの意味が強くなる。一般スポーツ実践者は量的には非常に少なく、生活構造における全体的な特徴は認められなかった。しかし、個別の事例をみてみると、施設内におけるレクリエーションサービスの存在、障害が軽度であること、階層的に上層であること、家族の十分なサポートが伺えることなど、それぞれの実践を支える要素の存在が確認される。ただし、これら全ての要素が必要なのではなく、どれか一つでも障害者本人をスポーツ実践へと導く下支えとなり得るかということが重要である。つまり、障害者のスポーツ実践は、その本人にとって必要な下支えが存在すると同時に、主体としての行為力を伴って初めて実現すると考えられる。やろうと思えば全ての障害者がスポーツを実践できるのでもなく、また、環境が全て整わなければ、あるいは、整いさえすれば実現できるものでもないのである。

最後に、今後の課題として以下の点が指摘される。本研究では、全体の傾向を捉えることを意図しているため、アンケート調査を採用している。これらの結果が、現実から大きくかけ離れないようにするために、併せて質的調査に取り組む必要がある。このことにより、アンケート調査結果から導き出された仮説を、より現実に即した形で理解できると同時に、生活者（主体）の行為力を含め検討することが可能になると考える。

本研究は、平成17～19年度科学研究費補助金基盤研究(C)を受けている(課題番号:17500434)。

参考文献

- 阿部智恵子ほか(2001) 資源としての障害パースペクティブの可能性:障害者スポーツ(水泳)選手へのインタビュー調査から。年報筑波社会学13。

藤田紀昭（1998）ディサビリティ・スポーツ：ぼくたちの挑戦。東林出版社。

藤田紀昭（1999）スポーツと福祉社会：障害者スポーツをめぐって。井上俊・亀山佳明編『スポーツ文化を学ぶ人のために』。世界思想社。

後藤貴浩（1999）障害者スポーツ事業の現状と課題：九州の障害者スポーツ事業を中心に。社会福祉学 40（1）。

後藤貴浩（2002）障害者スポーツのカテゴリー化に関する研究：車椅子バスケットボールチームにおける実践を通して。群馬大学教育学部紀要：芸術・技術・体育・生活科学編 37。

芝田徳三（1992）障害者とスポーツ：スポーツの大衆化とノーマライゼーション。文理閣。

鈴木広（1986）都市化の研究。恒星社厚生閣。

渡正（2005）「健常者／障害者」カテゴリーを揺るがすスポーツ実践：車椅子バスケットボール選手の語りから。スポーツ社会学研究 13。

注1：これらとは距離をとる形で、阿部（2001）、後藤（2002）、渡（2005）らの「障害カテゴリー」を議論したものもある。しかし、これらの研究にも障害者の具体的な生活は見えてこない。